

本興寺だより

令和四年
十一月
第三十九号

「一滴の水 漸漸に流れて大海となり 一塵積りて須弥山となる」

(宗祖 唱法華題目鈔)

秋が深まり、紅葉の鮮やかさが映える時期になりました。**紅葉**（こうよう）と**紅葉**（もみじ）とは別の意味があります。秋に色づく様々な草木等に対して使用される言葉が「こうよう」ですが、「もみじ」とは**楓**（かえで）の葉の別名でもあります。

よって「**楓の葉が紅葉**（こうよう）して**紅葉**（もみじ）になる」ともいえるのです。

紅葉（こうよう）は木々が冬に向けて葉を落とし眠る準備を始めるための前段階なのです。

晩秋から冬は、人間に当てはめれば老後から死への準備に当たります。

境内の木々の落ち葉も毎日たくさん溜まります。全て葉を落とすまで続きます。人の一生も今までに体験した思いへの執着や心の葛藤も、落ち葉のように心のこだわりを次から次へと捨てて、**精神的に身軽になつて命尽きるまで余生を生き切る**ことが大事なのです。

仏様は、人が苦しみや悩みから本当に開放され、不動の安らぎと喜びを得るには、**菩提心（真理を求め**



心）を起こして、その道（生き方）を歩むことが何よりも大切なことであると云われています。
その真理とは**自然界の摂理であり、宇宙の法則であり、生命の真相**でもあります。真理を知るとは、**私達の魂が目覚める第一歩**であると云われます。
法華経では、**諸法の実相の姿**として説かれています。大自然の命の中で、人の命も全て調和を保って営まれており、人の生き方も万象の営みにその手本と学びがあり、相互に融合しているのです。

調和を保っているとはどういうことなのか？

例えば「9」という数字は、一桁の数字で最大であり、完成を意味し、また天と地が満ちた状態とも言われます。邪氣を払う時にも九字を切ります。人の星回りも九星（一白・二黒・九紫）があります。

この九の二倍の数は十八であり、人間の一分間の正常な呼吸数も十八回前後といわれています。その数はまた生命の誕生の源である**海**の辺に打ち寄せるおおよそ一分間の波の数でもあります。

海という漢字は水（サンズイ）に母でできています。海は**生命を誕生させた母なる水**なのです。赤ちゃんは母親の胎内で「羊水」に包まれて育ちますが、この羊水の成分は海水とほぼ同じといわれています。人はいまだ海のならりを胎内に持つています。

十八の二倍の数の三十六は、おおよそ人の体温であり、

その二倍の七十二は、おおよそ人の脈拍数であり、また正常血圧の下限であり、その倍の**百四十四**はおおよそ正常血圧の上限ともいわれ、その倍の**二百八十八**は、赤ちゃんがお腹にいる日数であると云われます。俗にいう十月十日（とつきとうか）を経て、誕生します。朝の字は一日の命の幕開けの故に十月十日と書きます。水面に石を落とせば波が放射状に何重にも丸く広がるように、命の調和があるのです。

人間の身体には大事な**ツボ**（経絡||気・血・水の流れる通路）が**三百六十五**あるそうです。一年の日数と同じなのです。「経」とは身体を縦に走っているもの。「絡」とは横に走っているものです。

地球の経度と緯度が連絡し合い規則正しく運行されるように、人の身体も**経絡が、身体の表面だけでなく、細胞、神経、脳など全身を走り、全てがネットワークのようにつながっている**ということなのです。東洋医学の理論からいえば当たり前のことだといわれます。

自然界と人との調和の事例は枚挙にいとまがありません。

私達が認識する世界は、万象全て生成と消滅を繰り返します。人も生老病死を経て変化し、**諸行無常**といわれます。一人一人独立して単独で生きているように見えますが、**目に見える変化の奥に、目には見えないが、不滅であり不変である、自然界の摂理、常住の命**があるのです。全てが繋がっているのです。

その命が、調和を求めた生き方をするとき、初めて



輝いて生きられ、自分の本当の力が発揮できるのだと云われます。
日蓮聖人は冒頭の文のように、大海は一滴の水が集まったものであり、塵も積もれば須弥山となると云われています。
自然界の一滴の水の現象にも自然界全体の全てが縮小されているのです。人の生き方も心の持ち方も万象からの学びが一滴に含まれているのです。
人類の微量な一滴である**自分の価値と存在の意義**は途方もなく大きいのです。

人は、辛い時、その原因を他人に転化したがり、落ち込んだり、社会と距離を取ったりしがちです。しかし人生の出来事は意味のないことは一つもなく、全て魂の目覚めを促す目的があること。今の人生は皆自身の意思で決めていること。自分のこれからの人生を自分の力で変えることができることを知り精進することが大切であると説かれています。

人は、ばらばらの存在ではなく、互いに助け合って融合して生きていることへの、**気付きと感謝**が、自己の心に眠っている大きな力を引き出すのです。

自分が日頃どういう心の思いを持って生きるか？他人への気遣い、草木を含め万象への労り等、良きにつけ悪しきにつけ、その思いが、何れコダマとなって自分に影の力となって戻って来ると云われます。

合掌